

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593370

研究課題名(和文) 開発途上国における日本型助産技術研修の継続的開催及び受講者情報システム構築の研究

研究課題名(英文) Study for giving the successive Japanese style midwife in-service training at industrializing nation

研究代表者

大嶺 ふじ子 (OMINE, Fujiko)

琉球大学・医学部・教授

研究者番号：40295308

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：南スーダン国における3回の助産師現任研修参加者が学んだ知識情報や専門技術実施状況を、3回目研修終了1年後に現地調査で質的に分析した結果、研修受講後のスキル蓄積が環境的要因と内在的要因によって影響されること、受講者が臨床現場でスキルを構築していくプロセスを明確化し、促進・抑制要因を明らかにした。自己効力感のレベル維持・向上につながる体験型現任研修の重要性が示された。保健人材情報システムによる保健人材・研修アップデートやデータ集積を続けていたが、日本人専門家の地方出張制限、現地調査適任者不在、根本的な課題としての保健職種の標準化の問題等で情報確認も困難となり大きな課題が残った。

研究成果の概要(英文)：To investigate the process of building up skills learned in in-service training program for midwife in a leadership position in South Sudan, and analyze the factors that facilitate and minimize the application of new knowledge and skills into practice. The interview guide was developed to determine the progress and the challenges in the transfer of knowledge from the training program to practicum. The interviews were transcribed verbatim, followed by content analysis of data using the Modified-Grounded Theory Approach. This qualitative study was conducted in Juba, South Sudan. Based on the data, 3 categories were produced: "Development of motivation for application," "Building up midwife skills," and "Midwife care improvement in the facility." Overall, the incorporation of participant-centered learning methodology and strategies to effectively work through environmental issues and midwives' level of self-efficacy will increase successful application of learning.

研究分野：女性のマイナートラブルが周産期アウトカムへ及ぼす及ぼす影響

キーワード：南スーダン共和国 助産師育成 現任研修 半構造化面接 質的データ分析 自己効力感

## 1. 研究開始当初の背景

2011年7月に独立国家となった南スーダン共和国は自宅出産が80%を占め、妊産婦死亡率は2,054 [10万対、Sudan Household Health Survey (Southern Sudan Report), 2006]と報告され、助産師による安全で清潔な出産の機会を提供するための助産師教育が最重要課題であるとされている。筆者らは、2010年7月から、JICAと南スーダン政府保健省とのプロジェクト、“南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト”の一環として、助産師のスキルアップ事業部門へ参加している。この活動から、圧倒的に備品・人材不足の中での施設勤務助産師のスキルアップ研修を工夫・実施している。しかしながら、南スーダン国における助産師の実態把握のための調査や知識・技術レベルの調査はあまりない。そのため、保健人材情報ネットワークによる研修受講者登録および受講者評価、TCM (Training Cycle Management) スキルを用いた現任教育プログラム構築や実施評価基準の整備などの課題があがっている。また、研修計画を首都のみならず、全州へ拡大するためにも、助産師スキルアップ研修の保健人材ネットワークシステムへの取り込み、整備が求められている。

## 2. 研究の目的

南スーダン国は、保健医療における人材育成は大幅に立ち遅れている。助産師現任教育の効果というテーマに関しては、助産師のみならず看護技術分野の継続専門教育の研究、検討の重要なテーマとなっている。従って、本課題では、南スーダン・ジュバ市における助産師人材の実態把握調査、助産師現任教育プログラム構築、人材育成の地方までの拡大を目的に多施設参加のワークショップを開催、その波及効果と研修情報の共有を首都のみならず全州へ拡大するためにも、助産師スキルアップ研修の保健人材ネットワークシ

ステムへの取り込み、整備を促進する。

## 3. 研究の方法

(1) 国際協力機構 (JICA) と南スーダン政府保健省とのプロジェクト、“南スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト”の一環として、助産師のスキルアップ事業部門へ引き続き参加し、助産師の実数調査、研修登録及び受講者評価データベース整備のため専門家チームを組織する。

(2) 南スーダン保健省 Health Resource Development Directly の保健人材課スタッフ、前 JUBA Teaching Hospital 院長である産科医師、看護助産課長、JICA から Human Resource Information System の専門家、助産師ワークショップ助言者として当大学助産師教員が参加した構成メンバーで、研修受講者情報ネットワーク構築と並行しながら、人材課・看護助産課主導で実施できるよう、首都ジュバや近郊における第3回ワークショップを開催する。ワークショップの内容 (トピック、日程、予算、場所、人員)、各地域・施設からの参加者は、カウンターパートに一任、プレゼンテーション発表準備については研究者及びカウンターパートが支援を行う。ワークショップ内容は、受講者の知識・技術力を高めるため、非言語的コミュニケーション等を駆使した講義とモデル演習、実技を効果的に組み合わせた内容にする。産科救急法・新生児蘇生法が主でなく、妊娠期の感染予防対策をはじめ、予防的助産ケアを重視する日本の開業助産師の技術と知恵も組み入れた内容とする。

(3) ワorkshop全3回受講者11人の知識・技術レベル、各州自施設での伝達講習実施・波及効果についてフォローアップ調査を実施し、質的に分析する。

- (4) 助産師スキルアップ研修の保健人材ネットワークシステムへの取り込み、整備を進める。

#### 4. 研究成果

- (1) 助産師のスキルアップ研修登録及び受講者評価データベース整備のための基礎調査

南スーダン助産師養成学校は、JICA支援で開校したジュバ看護助産学校（JUBA CONAM : JUBA College Of Nurse And Midwifery）1校のみであり、完成年度の2013年4月、その卒後動向を調査した結果、入学時定員20人、卒業生は17人、ほとんどが都市部の病院に就職していた。南スーダンは10州よりなり、登録助産師数は202人であるが、免許形態が多岐にわたり9種の助産師名称が存在し、3年以上の教育経験を有する正規助産師はデータシステムから把握できた者は、全州で10人程度とかなり少ない。

- (2) 助産師現任研修としてのワークショップ開催

##### ワークショップ開催の準備

過去2回のワークショップ評価、研修受講者登録・評価情報ネットワークの整備のための基礎資料の継続的運用を目指しワークショップ開催の予備調査を実施した。地方病院からの参加については、予算上の問題から10州の施設から11人の参加にとどまった。受講予定者11人の年齢は25～70歳（平均40.7歳）、助産師養成期間が平均1年未満のものが多く、公用語は英語だが、アラビア語が主流言語であり言語の壁による研修遂行に困難が予想された。教育歴も幅がみられ、正助産師は3名、他は村落助産師であった。研修協力員として、政府看護助産課長、前ジュバ教育病院院長、

ジュバ教育病院産科主任助産師、ジュバ市近郊病院・ヘルスセンター助産師管理職、ジュバ看護助産学校の協力を得た。

##### ワークショップの開催

以下のテーマおよびプログラムでワークショップを開催した。

Theme : The Skills and Art of Midwifery, “Toward sustainable work-oriented training for preventive midwifery care in South Sudan“ .

(表1. ワークショップ・プログラム)

Day 1 (September 19 <sup>th</sup> )
1. Opening Address & Self-introduction
2. Orientation & Pre-Questionnaire, Grouping)
3-1. Future Vision of Midwifery Practice
3-2. How to Organize Work-oriented Training Program (Discussion & Presentation)
4. The Necessity and Importance of Recording for Daily Midwifery Care Improvement
5. Developing Action Plan
Day 2 (September 20 <sup>th</sup> )
Warming up: Review of Day 1
1-1. Newborn Resuscitation (Lecture)
1-2. Newborn Resuscitation (Demonstration)
1-3. Newborn Resuscitation (Practice)
2. Discussion & Preparation of Action Plan
Day 3 (September 21 <sup>st</sup> )
Warming up: Review of Day 2
1. Emergency Obstetric Care Focused on PPH (Post-Partum Hemorrhage) (Lecture)
2. Skill of Placenta Delivery, Evaluation of Uterus Contraction (Demonstration & Practice)
3-1. Discussion & Preparation of Action Plan
3-2. Action Plan Presentation & Discussion
Day 4 (September 22 <sup>nd</sup> )
1. Sterilization & Disinfection (Lecture)
2-1. Active Birth for PPH Prevention (Lecture)
2-2. Active Birth (Demonstration & Practice)
3-1. Discussion & Preparation of Action Plan
3-2. Action Plan Presentation & Discussion
Day 5 (September 23 <sup>rd</sup> )
1-1. Antenatal Care (Lecture)
1-2. Antenatal Care for PPH Prevention (Demonstration & Practice)
2-1. Discussion & Preparation of Action Plan
2-2. Action Plan Presentation & Discussion
2-3. Final Action Plan for each working place
3. Post-workshop Questionnaire & Workshop
4. Summary & Remarks

### (3) ワークショップ受講後のフォローアップ 調査内容の質的分析結果

南スーダンの指導的助産師がワークショップで得たことをスキルとして身につけるプロセスについて、研修受講後1年後に聞き取り調査を実施、調査内容を質的に分析した。結果は以下である。

助産師は、内戦状態の過酷な現状の助産活動を経験する中で、大量出血死や死産などの悲しい経験を通して命を助けたいという使命感を日頃から抱いていた。研修で学ぶ様々な情報の中から、現状では本意でどうしようもないと捉えていた現象に救命の可能性を見だし、＜実践加速要因＞となり、外部支援団体や妊産婦への働きかけなどの実践、関係者のニーズを検討・調整しながら徐々にあるいは一気に新しいケアを取り入れ、その体験を繰り返すことで「命を救うスキルの蓄積」を行っていた。例えば、マラリア薬配布やHIV検査などが主な業務であった妊婦健診で、触診や胎児心音確認などの技術を取得し、異常の早期発見、医師に照会・引き継ぐことで母子死亡を防げる可能性を学んだ。助産師は職場で新しい知識やスキルの実践を試みるが、分娩姿勢や分娩異常、地域の慣習へのこだわり、外部支援物資不足や、妊娠・出産に対する女性の無知といった[実践停滞要因]が実践を難しくする。実際にケアを取り入れたことでスムーズなお産を体験、危機に面していた母子に良い結果をもたらすといった成功体験により地域の人々から尊敬されるなどの「他者承認」を経験、研修で知識を増やしたいという学習意欲を増して研修に参加していた。指導的助産師は、研修での学びを同僚に伝える努力を行い、読み書きを伴わない効果的な指導方法、妊産婦への助産ケアの「実践の成功体験」から蓄積されたスキルへの自信、同僚の助産スキルの向上・実践による指導者の業務量減少

を体験していた。これらが指導の継続動機となり、そのバランスが上位に保たれることで指導継続の結果、助産ケアの質向上を可能にしていた。さらに、[指導継続実践]は、助産師の命を救うスキルの蓄積を促進していく力となっていた。保健医療教育が確立していない南スーダンでは、助産師の専門技術教育は、諸外国の支援団体が様々な内容や期間で行う、非常に「薄い」basic trainingが主流であり、十分に理解されていない現状がある。特に、助産師と見られているTBAや村落助産師のほとんどは、読み書きが出来ず、basic trainingの内容は、助産の基礎や薬の種類などを「歌」で覚えるなど、長年培ってきた経験的手法に頼っており、助産に対する解釈も様々であった。助産師たちは、3回の本研修を通して様々な情報が共有され、医療施設への積極的照会ができたという変化等がみられた。言語の壁に対する非言語的コミュニケーションの工夫等、多分野に広がる助産師活動のサポート、自己効力感を強化する研修内容を取り入れる必要性が示された。

(4) 本研究者と研究協力員としてJICAから派遣されている研修情報ネットワーク専門家の協力を得て、研修受講者登録・評価情報整備のための基礎資料作成を試みた。現地治安の悪化で、研究期間内での再渡航が困難となり、Webでの連絡のみとなったため、研修情報・評価の登録システム構築は途上であり大きな課題が残った。

### 5. 主な発表論文等

[論文] [計4件]

高山智美, 遠藤由美子, 玉城陽子, 辻野久美子, 儀間継子, 川満恵子, 大嶺ふじ子, 臍帯結紮時期が成熟児の生理的黄疸と乳幼児早期の血中ヘモグロビン値に及ぼす影響について, 母性衛生 56 巻 1 号; 77-86,

2015.

Tsugiko Gima, Risa Shikenbaru, Kumiko Tsujino, Tomiko Hokama, Fujiko Omine, Yumiko Endo, Yoko Tamashiro, Characteristic features of sleeping habits of 3-years-old infants in Okinawa, Japan, Official Journal of Ryukyu Medical Journal, 33(1-3), 29-40, 2015.

Hirata Miki, Omine Fujiko, Factors affecting the learning implementation of in-service training in South Sudan, 平成 25 年度琉球大学大学院保健学研究科博士前期論文, 2014.

大嶺ふじ子, 南スーダン国保健人材育成プロジェクトが琉球大学へ与えたインパクト, JECK ; JICA Experts' Conference of Kanagawa, Vol. 18, 3pp, 2012.

[学会発表] [計 8 件]

Yumiko Endo, Yoko Tamashiro, Fujiko Omine: study of midwife care during midwifery student training -from one-month postnatal examination survey-. Joint Seminar on Public Health and Nursing, Nishihara, 2014.

高山智美, 遠藤由美子, 玉城陽子, 辻野久美子, 儀間継子, 大嶺ふじ子, 臍帯結紮時期が正期産児の胎外環境適応過程に及ぼす影響について, 第 54 回日本母性衛生学会, 大宮ソニックシティ (埼玉), P2-043, 335p, 2013.

T, Gima, K. Tsujino, F. Omine, Y. Endo, Y. Tamashiro: Parents' awareness regarding the sleep habits of their 3-year-old children in Okinawa prefecture- Comparison of the bedtime of parent and child. 9th INC & 3rd WANS Conference, Seoul, 2013.

Miki Hirata , Fujiko Omine , Yumiko

Endo , Yoko Tamashiro , Keiko Kawamitsu , Shige Kakinohana , Kumiko Tsujino , Tsugiko Gima , Tomomi Takayama , Rika Takemoto , A study on factors affecting the impact of midwifery in-service training in South Sudan . The 28th Japan Association for International Health congress, Nago, 2013.

大嶺ふじ子, 南スーダン共和国における助産師育成プロジェクト, 第 120 回琉球大学医学部保健科学研究会, 西原町, 2013.

Tsujino K, Gima T, Kutsunugi S, Murakami K, F. Omine, Y. Endo, Y. Tamashiro: Change in nursing students' image of autism -Through rehabilitation volunteer activities-. The 16th EAFONS Conference, Bangkok, 2013.

Endoh Y, Omine F, Tamashiro Y, Yamaguchi S, Kato M: Support frequency and the meaning of childcare for grandmother caring for infants. The 44th APACPH Abstract book: 271-272, Oct 16, Colombo, Sri Lanka, 2012.

Tamashiro Y, Hokama T, Endo Y, Omine F: The relationship between breastfeeding and the characteristics of pregnant women. The 44th APACPH Abstract book: 294, Oct 16, Colombo, Sri Lanka, 2012.

## 6 . 研究組織

### (1) 研究代表者

大嶺ふじ子 (OMINE, Fujiko)

琉球大学・医学部・教授

研究者番号 : 4 0 2 9 5 3 0 8

### (2) 研究分担者

遠藤由美子 (ENDO, Yumiko)

琉球大学・医学部・准教授

研究者番号 : 9 0 2 8 5 3 0 8

(3) 研究分担者

玉城陽子 (TAMASHIRO, Yoko)

琉球大学・医学部・助教

研究者番号：70347144

(4) 研究分担者

垣花シゲ (KAKINOHANA, Shige)

琉球大学・医学部・教授

研究者番号：50274890